



DOSHISHA ROHM PLAZA AWARD 2006 2006年度 同志社ローム記念館 大賞

<誘致プロジェクト>

「幼児から高齢者まで」 メールで話そう! プロジェクト

— タブレットPCを活用した
多世代メールコミュニケーション —



■活動概要

通称「みなメールプロジェクト」。

「新しいコミュニケーションツールとしてメールを活用し、世代を越えてあらゆる人にコミュニケーションを深めていってほしい」という目標に向けて活動を行いました。同志社幼稚園、宝塚エデンの園の協力により、タブレットPCで使用する、幼児向けメールソフト「おちゃメール」と高齢者向けメールソフト「吟メール」を用いての3世代間(高齢者・学生・幼児)のメール交流を実施。

開発されたメールソフトはWEBでも公開しています。

<http://rohm.drm.doshisha.ac.jp/project/contents/>

●参加企業・団体

マイクロソフト株式会社

●プロジェクトリーダー

熊野 和久 (マイクロソフト株式会社)

●プロジェクト責任者

和氣 早苗 (同志社女子大学学芸学部准教授)

●メンバー数

11名

授賞理由

本プロジェクト活動は、目的が明確であり、具体的に設定した目標に向かって積極的に推進されている様子がうかがえました。また、幼稚園や老人ホームを訪問する活動も活発に行われ、社会と接する機会を多く持ったプロジェクトとなりました。幼児や高齢者など、世代を超えた交流の中で得た情報をうまく利用し、幼児向けの説明に人形劇を取り入れ、「おちゃみん」というマスコットを利用したことが大変ユニークであり、説明相手を良く理解した上で、活動していると感じました。

ユーザが何を求めているかを知った上でシステムを開発する姿勢はすばらしいと思います。

今後の活動の中で、また人生においても「相手をより深く理解する気持ち」は大切なことです。いつまでもその気

持ちを忘れず、活動してください。

システム面においてはインタフェースの分析、コミュニケーション実践の分析までに至って活動していることがすばらしかったです。幼稚園児と高齢者との交流活動において、パソコンでのメールも有効なツールですが、やはり「Face to Face」にかなうものではありません。初期段階から顔合わせの場を設けることができているならば、より活発なメール交換がされ、より多くの情報が得られたかもしません。

このプロジェクト活動をおとして経験したものはメンバーにとって貴重な財産になると思います。今後のさまざまな活動に活かしていただくとともに、今回の大賞授賞に満足することなく、次年度の更なる発展を期待しています。



DOSHISHA ROHM PLAZA AWARD 2006

優秀賞

<誘致プロジェクト>

edu-Venture



■活動概要

産官学連携でのe-learning講座の実施を主な目的に掲げ、活動を行いました。

プロジェクト独自のe-learningコンテンツ開発のみならず、地方自治体主催の講座向けに、4つの講座のe-learning教材を制作。宇治市、八幡市、城陽市、京田辺市で実際に配信されています。これまでの活動で、教材制作のノウハウの蓄積について積極的に取り組んだ結果、これらの講座の実現にもつなげることができました。この活動をひとつのモデルケースとして、京都府によるe-learningシステム立ち上げにつながるなど、地域のe-learning発展の一端を担うこととなりました。

- 参加企業・団体
萬世電機株式会社
- プロジェクトリーダー
太田 豊臣(萬世電機株式会社)
- プロジェクト責任者
川田 隆雄(同志社女子大学学芸学部准教授)
- メンバー数 7名

授賞理由

1年間の活動、また3年間を通した活動内容や得たことがよくわかる、大変良いプレゼンテーションでした。

「e-learning」の教材制作をコアとしつつ、「e-learning」だけにとらわれず、オンラインでの「パネルディスカッション」などを柔軟に取り入れていることも大変評価できました。また社会性の面においても、一昨年、昨年と2年間で蓄積されたノウハウを今年度は自治体・行政へ引継ぎ、プロジェクトの足跡を社会へ残したことは大変素晴らしいことでした。それらを踏まえ、この3年間の本プロジェクト活動は、ローム記念館プロ

ジェクトの1つの完成された型になったように感じます。また、自治体・行政とのやりとりの中で、参加されているメンバーが大きく成長してきた様子がかうかえたことも大変うれしく思います。

このプロジェクトでの経験や得たものは全てメンバー自身の貴重な財産として、この場限りのものにするのではなく今後もさまざまな活動に活かしてください。3年間ご苦労さまでした。





DOSHISHA ROHM PLAZA AWARD 2006

優秀賞

<公募プロジェクト>

同志社大学 レスキューロボットプロジェクト



■活動概要

実際の1/6サイズのレスキューロボットを設計・製作し、レスキューロボットコンテストに出場すること、また、ロボットが人間のミスを未然に防ぐ機能を設計開発することを大きな目標として活動を行いました。第6回レスキューロボットコンテストでは、書類審査、予選を経て、本選出場を果たし、完全自律型瓦礫除去ロボットや、二次災害を未然に防ぐために搭載した半自動による救助作業が高く評価され、「アイデア賞」を受賞することができました。また、イベントで子ども達にロボットに触れてもらう機会を提供するなど、活動を通じて、ものづくりへの興味の喚起をはかりました。

●プロジェクトリーダー

堀内 智之 (同志社大学工学部)

●プロジェクト責任者

橋本 雅文 (同志社大学工学部教授)

●メンバー数 23名

授賞理由

昨年、一昨年に引き続き、レスキューロボットコンテスト入賞を目指して活発に活動し、その成果としてアイデア賞を受賞されたことで、また一つ前進した印象を受けました。さらに、本年度は、大学内だけでなく、他大学と連携しようとした新たな試みや、同志社京田辺祭での一般の方とのふれあいなど、社会へも少しずつ羽ばたきつつあることがうかがえました。今後も社会へのつながりを広げ、幅広く活動されることを期待します。

また、新たに「やさしさ」に配慮したロボットを作成中ということでしたので、「やさしさとは何か」の部分の掘り下げ、社会に必要とされているロボットが完成されることを望みます。今後とも社会に大きく貢献できるプロジェクトとして、さらに発展していかれることを期待しています。

